

表紙の人

いしばし てるいち
石橋 輝一 氏



【プロフィール】

吉野中央木材株式会社
専務取締役
一般社団法人吉野と暮らす会
代表理事

1978年奈良県生まれ。
札幌での学生生活、大阪や東京での仕事を経て、27歳で家業の吉野中央木材に入社。吉野杉や吉野桧の魅力を多くの人に伝えるため、異業種とのコラボやイベントの開催など、木の暮らしを広める活動を行う。
地元吉野の製材、集成材、木工の後継世代が中心となった「吉野と暮らす会」の代表も務める。



吉野中央木材
(公式サイト)

吉野と暮らす会
(WEBショップ)



「表紙の人」奈良の木シリーズ3回目は、吉野町で吉野杉・吉野桧の製材加工販売業を営まれている石橋様にインタビューしました。
歴史ある吉野の製材業も転換期を迎えているようです。

■貴社の事業をお話いただけますか

原木丸太を市場で購入し、製材、乾燥して主に建築材として出荷しています。現在は、年間約1500㎡の原木から約500㎡を製材品として出荷しています。その内約50㎡は10年程前から需要が復活した桶材なんです。

■製材業を取り巻く環境はいかがでしょうか？

木材の需要量が減少しています。吉野材は年輪が細かく見た目が綺麗で強度も高いという特長がありますが、その良さを生かせる使われ方が減っていて、需要のある価格帯に合わせざるを得なくなっています。

■吉野からの情報発信もされていますね

「吉野と暮らす会」を吉野の木の仕事（林業、製材所、集成材工場、木工所）にかかわる後継者の有志で2012年に結成しました。吉野の木にまつわるコトやモノを発信して、山と街に仲間を増やしながら、木のある暮らしを伝えていく活動を続けています。「愛・学習プロジェクト」では、小・中学校の入学時に机や椅子を吉野材で作し、「自分の机」として9年間使ってもらい、卒業の日には机の天板を外して持って帰ってもらう活動をしています。また、コミュニティハウス「吉野杉の家」の運営なども手掛けていて吉野に足を運んでいただく国内外の人も増えました。



■今後の計画・抱負をお聞かせください。

製材業の将来のために、事業の幅を広げていきたいと思っています。仲間と「吉野杉デザイン研究所」を立ち上げ、原木から家具や什器の製品化なども試行しています。品質に見合った、林業家に負担をかけない木材価格形成につなげていければと考えています。

■建築士への期待をお聞かせください。

木の良さを分かっていただけの人を増やすことが大切だと思っています。木の文化を作る、人を育むことにご協力いただけませんか。

■ありがとうございました。

【記：情報・広報委員会 伊藤吉郎】

新年のご挨拶



令和5年 新年のごあいさつ

(一社) 奈良県建築士会会長
米村 博昭

令和5年の新年を迎えご挨拶申し上げます。会員の皆様におかれましても、新型コロナウイルス感染のため、仕事をはじめ生活に多大な影響を受けご苦労されていらっしゃるかと推察いたします。治まる気配がなく、ウィズコロナの生活が日常化していくようです。昨年度は、奈良県建築士会が設立70周年の節目の年でありました。1950年代の戦後の復興期、60年～70年代の高度経済成長期、80年代のバブル期、90年～10年代のバブル崩壊後の経済低迷期、そして地球環境問題や持続可能な社会構築の現在など、諸先輩のご尽力により時代時代の課題に取り組んでまいりました。コロナ禍で、特段の事業ができませんでした。昨年6月29日には70周年記念講演会「ならの観光バリアフリーについて考える」を開催いたしました。

現在、奈良県建築士会では、持続可能な開発目標である17の目標を視野に入れて事業・活動を進めています。奈良県や木材事業者などと連携して公共建築物の木造化推進のため、発注者向けの手引きの作成、木の建築技術者研修会などに取り組んでいます。建築物、住宅の省エネルギー化の推進も重要です。すべての建築物の「省エネルギー基準の適合」義務化を踏まえ、その趣旨の啓発を進めています。SDGsの目標13や目標15に関わるものです。

また、地震や風水害の甚大な被害が毎年のように繰り返し発生しています。防災・減災、復旧・復興に建築士の果たす役割は益々重要であります。本年2月7日には、日本建築士会連合会が作成しました「地震風水害対策用 建築士会事前防災活動指針」の勉強会を開催いたします。SDGsの目標11に繋がります。

空き家の問題については、市町村と連携を図り、空き家相談や利活用の推進を進めており、「空家等対策協議会」への委員も派遣しています。生駒市等では空き家対策プラットフォームの構成員として、

できるだけ早い段階での取り組みを進めています。

本県には、文化財に指定された建築物だけでなく、歴史的建築物が多数残されています。これらの活用を図り地域活性化を推進することが重要です。現在は、JR桜井線の駅舎とその周辺まちづくり活動、特にJR畝傍駅舎の保全活用を推進しています。

最後に、建築に関する研修など本会の活動にご参加をいただくとともに、建築士という資格を地域貢献に活かしていただければと思います。今年も引き続き本会の活動にご支援いただきますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



令和5年 新春ごあいさつ

奈良県知事

荒井 正吾

皆さま、明けましておめでとうございます。

昨年までの3年間、新型コロナウイルス感染症の影響で、県民生活の苦しい時期が続いてきました。まだ一部に困難が残っていますが、今年はコロナ禍を乗り越えて、健全な日常生活を取り戻し、奈良県がさらに発展することを改めて願いたいと思います。

奈良県が大きく変わってきています。

これまで奈良県は大阪のベッドタウンとして発展してきました。奈良県に住宅がある大阪通勤者が増えた結果、奈良県の人口が大きく増加しました。その結果、県外就業率が全国1位の時代があったのですが、この25年間に県外就業が減り、県内就業が増えた結果、県外就業率は33%から27%に減少し順位も全国3位となって、脱ベッドタウン化が進んできました。奈良県に住まわれるようになった次の世代の就職先が県内で多く見つけられるようになると、親の世代が県内で独りぼっちにならなくて済み、住んで良し、働いて良しの奈良県が実現することになります。

脱ベッドタウン（県外就業率の低下）のきっかけ

新年のご挨拶

となる県内雇用の増加は、県内工場立地件数の増加（近畿2位、全国9位）、県内有効求人倍率（近畿1位）などの先行指標で表されています。

奈良県発展の大きな動きが眼前に

奈良の未来の発展に寄与する大きな動きが眼前に現れてきました。そのひとつが、リニア中央新幹線の「奈良市附近駅」の設置に向けた動きです。駅の位置、ルートを確定し、工事を着工するには環境影響評価を必ずしなければなりません、それを2023年、つまり今年に行うべしということを国が公式に明言したのです。岸田内閣総理大臣も、私と三重県知事と呼んで、両知事は、駅・ルートの確定に特段の働きをするようにと、指示・激励を受けました。このようなことは、これまで一度もありませんでした。

リニア中央新幹線の「奈良市附近駅」を確実にするのに、今年はとても重要な年になってきています。リニアと密接に関係するプロジェクトが、五條市に建設予定の2千メートル級滑走路を有する大規模広域防災拠点です。先日事業開始式を行うことができましたが、国から事業費の7割が交付税として措置される制度を適用でき、谷を埋める盛土材はリニア中央新幹線工事での発生土を活用し、鉄道による輸送も検討しています。

また、リニアの「奈良市附近駅」と五條市の大規模広域防災拠点の間にあって、京奈和自動車道が走る大和平野中央部（磯城郡3町）に、（仮称）奈良県立工科大学とスタートアップヴィレッジ、サッカーをはじめとする球技専用スタジアムを核としたウェルネスタウン、スポーツと食と農が融合するウェルネスタウンをテーマとする拠点整備など、大和平野中央田園都市建設も楽しみです。

皆さまがご健勝にお過ごしになり、奈良県が大きく飛躍する今年になりますよう、心からお祈り申し上げます。



令和5年 新年のご挨拶

奈良市長

仲川 げん

新年あけましておめでとうございます。

（一社）奈良県建築士会の皆さまにおかれましては、清々しい令和5年の新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

平素より、本市の建築行政にご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、世界中で猛威を振るう新型コロナウイルスは、昨年その勢いは衰えず、人々の暮らしや社会経済に深刻な影響を及ぼしています。そのような状況下でも、なんとか経済を立て直すため、「新型コロナウイルスとの共生」を図る道が世界で模索されています。

本市としても新型コロナと共生しつつ、感染対策の徹底と地域経済の再生をめざし、ふたたび国内外から多くの観光客が訪れる「まち」として、コロナ禍以前の賑わいを創出できるよう魅力の発信を継続してまいります。

それに関連して、本市で長年整備を行ってまいりました、「まち」の顔のひとつである「近鉄大和西大寺駅周辺整備事業」が、いよいよ本年3月末をもって完了し、新たな賑わいの拠点となる予定でございます。「まち」を構成する要素の一つである「建築物」は、人々の生命と財産を守る、くらしの中で最も重要な場所であり、この「建築」に日々携わっておられる皆様方と共に「新型コロナウイルスとの共生」を念頭に、安心・安全なまちづくりのために、本年も更なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴士会の皆様方にとりまして、新しい年が幸多き素晴らしい一年となりますよう心からご祈念を申しあげまして、私の新年の挨拶といたします。



新年のご挨拶



令和5年 新年のご挨拶

橿原市長
亀田 忠彦

令和5年の年頭にあたり、一般社団法人奈良県建築士会の皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より本市の建築行政にご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

未だ終息の見えない新型コロナウイルス感染症ですが、外国人観光客の入国制限や各種イベントの開催制限が緩和され、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の賑わいが少しずつ戻ってきています。一方で再び感染拡大が報じられるなど状況は予断を許しませんが、地域経済の活性化に向け、感染症を正しく理解し、コロナ禍においてもできることに全力を尽くしてまいります。

さて、地震や台風などの自然災害が日本各地で発生し、住宅やブロック塀の倒壊、がけ崩れなどにより、多くの被害がもたらされています。巨大化、激甚化する自然災害に備えるため、本市では橿原市第4次総合計画において、安全で快適に生活できるまちを目指し、災害に強い安全・安心なまちづくりを推進することとしており、様々な取組を行っています。とりわけ、安全な建築物を提供することは市民の安全に直結するものであると考えており、耐震性能の向上や建築物の適正な建築・維持保全に努めてまいります。

こうしたことを進めるため、本市で建築行政の建築確認申請業務や特殊建築物等の定期点検報告業務、耐震対策事業における建築物の耐震診断や補強設計を実施していますが、業務や事業を着実に推し進めるためには建築士の方々の知識や経験が不可欠です。また、地震など大規模な災害が発生し、多くの建築物が被災した場合には、被災建築物応急危険度判定業務や被災宅地危険度判定業務において、市内の被災した既存建築物や宅地の被災状況の把握や安全性の確認を行って二次災害を防止するため、建築士の皆さまに判定士として共に活動していただくことをお願いしているところです。

安全・安心なまちづくりの実現、そして、魅力ある橿原市のまちづくりのため、これからも建築士の皆さまのご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

結びに、貴会のますますのご発展と会員皆さまのご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



令和5年 新年のごあいさつ

生駒市長
こむらさき まさし
小紫 雅史

新年明けましておめでとうございます。旧年中は本市行政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。また、本市の安全安心な都市づくりに日頃からご尽力いただいていますこと、重ねてお礼申し上げます。

本市では、まちづくりのビジョンとして「自分らしく輝けるステージ・生駒」を掲げ、市民や事業者の皆様と協力しながら、「住む」だけでなく「働く」「楽しむ」といった要素を含め、より豊かな住宅都市への進化を具体化しているところです。

その施策の一つに学研高山地区第2工区のまちづくりがございします。昨年6月に「学研高山地区第2工区マスタープラン」を策定し、従来の住宅中心のまちづくりから奈良先端科学技術大学院大学を中心とした産学官民の連携による“オープンイノベーションを創出”するまちづくりに転換を図りました。このマスタープランをもとに、周辺の里地里山などの自然環境や地域が持つ伝統・文化を活かした産業・学術研究拠点を形成していきます。

これらを具体化するため、昨年11月には有識者に加え、奈良県と国土交通省にもご参画いただき、「学研高山地区第2工区事業推進会議」を設置いたしました。

本年は、この事業推進会議のご意見を踏まえながら、先行する個別地区で「まちづくり協議会」を立ち上げ、事業の更なる具体化に向け取り組みます。

さらに、産業・学術研究拠点の形成に加え、次世

新年のご挨拶

代を見据えた都市拠点や地域拠点の形成にも取り組んでいきます。

まず、都市拠点である生駒駅の南口周辺においては、公民連携によるエリアプラットフォームを構築し、「にぎわいと風格のある拠点形成」に取組み、併せて周辺エリアの価値向上に向け、民間活力も活かした公共施設の複合化・多機能化の検討をしております。

また、学研北生駒駅や南生駒駅周辺などの地域拠点においては、地域の顔となり身近な生活や交流を支援する機能が集約された拠点形成やバリアフリーなど多様な市民ニーズに応える整備を進めてまいります。

一方、住宅分野においては、「いこま空き家流通促進プラットフォーム」で昨年は、20件の空き家を成約しました。また、昨年5月には空き家の地域活用を促進する事業として「恋文不動産」を始め、今年は、空き家調査を予定するなど、さらに空き家対策を進めてまいります。今後も貴会のご協力を得ながら、住宅の耐震化、省エネ化の促進などより一層、既存建築物のストックの流通・利活用促進等、持続可能なまちの実現に向けて取り組んでまいりますので、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴会および会員の皆様のご発展を心からお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



令和5年
新年のご挨拶

奈良県県土マネジメント部
地域デザイン推進局建築安全推進課長
前田 巧

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

奈良県建築士会会員の皆様におかれましては、日頃から本県の建築行政にご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、混沌とした社会情勢の中、また、日常を取り戻しつつありながらも配慮が欠かせないコロナ禍において、貴会の様々な活動に注力・奔走され

たことと存じます。

今後もこれまで以上に、建築に関わる私たちを取り巻く環境が大きく変化して参ります。令和4年6月17日には、建築基準法及び建築物省エネ法が改正されました。この改正は、2050年のカーボンニュートラル、2030年度温室効果ガス46%削減に向けて、建築物の分野における省エネ対策の徹底を進めるとともに、木材利用の拡大を図るために行われたものです。具体的には、大規模建築物における木造化等を推進するための防火規定の合理化、消費者が安心して整備・取得できる環境の整備を目的とした省エネ基準・構造安全性の基準への適合を担保するための「4号特例」の見直し、全ての新築住宅・非住宅への省エネ基準適合の義務づけ等が令和7年6月までに順次施行されます。

また、令和4年5月27日に、宅地造成等規制法の一部を改正する法律（通称：盛土規制法）が公布され、公布から1年以内に施行される予定です。盛土規制法は、盛土等により人家等に被害を及ぼしうる区域を規制区域として新たに指定するとともに、盛土等による災害から生命・身体を守ることを目的に、宅地、森林、農地などの用途に関わらず、危険な盛土等を全国一律の基準で包括的に規制しようとするものです。具体的には、宅地造成等の際に行われる盛土だけではなく、単なる土捨て行為や一時的な堆積についても規制することとされています。

本県では、県民の皆様の安全・安心の一層の確保のため、建築基準法及び建築物省エネ法の改正内容の周知・啓発、並びに盛土規制法に係る適正な制度運用を行うための検討を行って参ります。そして、貴会が参画されている各協議会の活動としまして、地震時における住宅・建築物の被害の軽減を図るための耐震化への取り組み、被災建築物・宅地応急危険度判定に係る実施体制の整備、災害時の被害や危険性が増す恐れのある違反建築物対策を引き続き進めて参ります。

これらの取り組みを円滑に進めていくためには、建築士会会員の皆様のお力添えが不可欠と考えておりますので、引き続きのご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、奈良県建築士会の益々のご発展と会員の皆様のご多幸をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

謹 賀 新 年

(一社)奈良県建築士会参与会々員

株式会社 浅沼組 (奈良営業所) 奈良市三条本町4-32 中室ビル ☎0742-26-5225 東口 勝彦	株式会社 奥村組 (奈良支店) 奈良市高天町38-3 近鉄高天ビル ☎0742-22-5001 芳村 昌秀	株式会社 尾田組 奈良市高畑町738-2 ☎0742-26-6011 尾田 安信	株式会社 鍛冶田工務店 (奈良本社) 御所市150-3 ☎0745-65-2131 鍛冶田 八彦
株式会社 崎山組 橿原市南八木町2-3-35 ☎0744-22-2353 寄山 和之	清水建設 株式会社 (奈良営業所) 奈良市大宮町7-1-33 奈良センタービル ☎0742-34-1510 正井 洋	大日本土木 株式会社 (奈良営業所) 奈良市高天町38-3 近鉄高天ビル ☎0742-22-3071 藤垣 淳	株式会社 中和コンストラクション 桜井市桜井281-7 ☎0744-42-9313 大浦 晃平
株式会社 中尾組 桜井市桜井553-1 ☎0744-42-3567 中尾 隆成	中村建設 株式会社 奈良市三条大路1-1-48 ☎0742-33-1001 中村 光良	株式会社 平成建設 橿原市曾我町352-4 ☎0744-22-3800 吉崎 真仁	松塚建設 株式会社 宇陀市榛原福地610-1 ☎0745-82-1371 井上 清利
村本建設 株式会社 北葛城郡広陵町大字平尾11-1 ☎0745-55-1151 高田 幸伸	株式会社 森下組 吉野郡大淀町檜垣本1589 ☎0747-52-3535 森下 秀城	株式会社 山上組 奈良市鳥見町1-1-3 ☎0742-44-0063 山上 武宏	

謹 賀 新 年

役員・有志

井上建築工房アルス 大和郡山市北郡山町158-6 大和第3ビル204 0743-51-0286 井 上 慶 治	岡本設計 五條市本町1-7-30 0747-22-0282 岡 本 光 弘	大和ハウス工業株式会社 大阪市北区梅田3丁目3番5号 06-6131-8550 折 目 貴 司
小松原工務店 宇陀市菟田野松井170-1 0745-84-4128 小松原 寛俊	株式会社ワールド設計 磯城郡田原本町三笠152-10 0744-33-1616 阪 口 龍 平	小林建築事務所 天理市柳本町1519 0743-66-2511 庄 田 尚 代
大勝建設株式会社 天理市九条町377-5 0743-66-2569 中 嶋 孝	株式会社中和設計 橿原市今井町2丁目1番14号 0744-25-5356 中 谷 淳 一	株式会社中西構造設計 橿原市新賀町235-6 橋本ビル3階 0744-24-6537 中 西 治 夫
株式会社伸構造事務所 香芝市瓦口2166 0745-71-2200 中 本 明	株式会社樹谷設計 奈良市西ノ京町101番地の1 0742-34-1461 中 元 綱 一	株式会社福本設計 奈良市大宮町4-281-1 新大宮センタービルディング 0742-34-2800 西 峯 隆 司
有限会社センザイ不動産 一級建築士事務所 天理市杉本町354-1 0743-63-7268 福 田 成 生	松塚建設株式会社 宇陀市榛原福地610-1 0745-82-1371 松 塚 幾 善	公益社団法人 奈良まちづくりセンター 奈良市中新屋町2-3 0742-26-3478 米 村 博 昭

(50音順)

令和4年11月26日(土)に開催された第40回近畿建築祭 京都大会において、午後のプログラムとして近畿あーきてくと Vol. 30 育つ×育てる×育ちあう～地域の未来の「30」を創造する～が開催されました。現地参加72名、WEB参加19名の合計91名に参加いただいた内容をご報告いたします。

1.事業概要

この事業は青年層の建築家及び建築学科の教員の活動を知り、さらに建築学生の活動報告の場とする事で育つこと・育てることについて学び、未来の地域貢献について考える機会を作ることを目的として企画されました。

事業の内容は、まず2名のゲストに講演を行っていただきその後、学生の活動報告として2グループに発表していただきました。さらに最後に登壇頂いたゲストの方全員に近畿建築士会協議会青年部会より代表2名を加えてトークセッションを行いました。



(トークセッションの様子)

2.ゲスト紹介

①日暮手傳舎 吉田玲奈氏

京都市内の古民家の修繕を行っており、日々の仕事を通じて感じる事や地域との関わりを紹介し、これからの建築現場やまちの姿について講演いただきました。



(講演の様子)

②和歌山工業高校 坂東大介氏

建築の面白さを生徒に感じてもらうために教育現場で出来る事について講演いただきました。



(講演の様子)

③奈良女子大学 生活環境部 住環境学科

平城宮跡歴史公園アオハルプロジェクトの取り組みについて発表いただきました。



(発表の様子)

④修成建設専門学校 ガーデンデザイン学科

大阪市西淀川区の大野川緑陰道路広場の継続的整備プロジェクトについて発表いただきました。



(発表の様子)

3.おわりに

今回の企画は、近畿あーきてくとが30回目ということで30をテーマとして30年後の未来についてトークセッションが行われ、自分自身も未来のことを考える機会になったと感じました。

【記：青年委員会 永友 翔】

JR 畝傍駅舎の保全活用を進める活動

JR 畝傍駅舎の保全活用を目指して、JR 西日本と橿原市は、駅舎を無償譲渡することを前提に協議を続けておりましたが、令和3年12月に橿原市はJR 畝傍駅舎の無償譲渡を断念すると表明されました。そのため、JR 西日本は、駅舎をコンパクトな駅舎に建替えることができるようになります。



JR 畝傍駅舎

JR 畝傍駅は、橿原市の顔であり、駅舎の中には皇族が神武天皇御陵に参拝時に利用された貴賓室もあり、歴史的・文化的にも、景観・観光資源としても非常に価値のある建物です。

また、橿原市の中心部のまちづくりを進めるうえでも重要な位置付けがされている建物です。奈良ヘリテージ支援センターも JR 万葉まほろば線沿線の駅舎等調査・活用提案も行っていますが、大きな支障が生じます。

そこで、畝傍駅舎を解体しコンパクトな駅舎に建替えるのではなく、駅舎を活かし活用する方向で、橿原市・JR西日本そして、市民も参画して協議を行い、JR 畝傍駅舎の保全活用を再検討していただくよう働きかけています。

(一社)奈良県建築士会、(一社)奈良県建築士事務所協会、(公社)日本建築家協会近畿支部奈良地域会は、「JR 畝傍駅舎の無償譲渡提案を断念の再考をお願い」を橿原市・市議会に提出しました。

10月16日には、「JR 畝傍駅舎の保全活用を進める会」を設立し、署名活動や清掃活動を進めています。



駅舎の事例
(香久山駅舎)

もし無償譲渡を受け
ないとこのような駅
舎に・・・

【記：畝傍駅舎の保全活用を進める会 米村博昭】

2022 生駒スタイリングウィークイベント

10月に行われた生駒スタイリングウィークのイベント参加レポートです。生駒市が主催で今の変化の時代に自分らしいと感じられるライフスタイルの選択肢やまちの魅力を市民や参加者に伝えるイベントです。

私が参加・お手伝いしたイベントは「住まいを手に入れる職人に学ぶ・初めてのDIY」です。

住まいのことや住宅のリフォームに興味がある方々を対象に、建築士による中古住宅リノベーションの実例紹介①、職人による実演②を参考にしながら、参加者によるクロス貼りDIY体験③と漆喰塗りDIY体験④、最後に住宅に関するDIYやりノベーションのお悩み相談が行われました。

建築士による実例紹介では、築年数の経っている住宅でも、耐震改修をすることで住まう人の現在のライフスタイルに合わせた間取り変更ができること、DIYによりコストを抑えながら自分らしい愛着の持てる家になることなどを紹介していました。

参加者によるDIY体験では、枠を廻した石膏ボードを壁に見立て、表はクロス貼り、裏は漆喰塗りをしました。始めは皆さん慎重に作業をされていましたが、コツをつかむと積極的に仕上げを行っていました。

またお悩み相談では、壁紙の張替えや外壁塗装をDIYでできるかなどご自身の家のリノベーションに対する意欲的な質問が多くありました。今回、建築士には設計の他にもできることがあり、人と人との関わり方を考える良い機会となりました。



①リノベーションの実例紹介 ②職人によるクロス貼の実演



③クロス貼りDIY体験 ④漆喰塗りDIY体験



⑤キッズ工作ブース

【記：生駒支部 西本 翠】

お知らせ

●令和5年新年大交歓会

開催日：令和5年1月27日（金）18:30～
会 場：ホテルリガーレ春日野2階飛鳥の間
※お申し込みがまだの方は弊社ホームページに
申込方法を掲載しております。

●奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会 （更新及び新規登録）

開催日：令和5年1月12日（木）
会 場：奈良県文化会館 小ホール
※会場へはなるべく公共交通機関をご利用下さい。

編集後記

BIM（ビルディング インフォメーション モデリング）を導入して1年が経ちました。コンピューター上に現実と同じ建物の立体モデル（BIMモデル）を再現するというものです。民間の新築物件を2件入力してみました。使ってみた感想は入力には結構手間が掛かりますが、一度入力すると変更は簡単です。私は入力作業ができません。平成のスタッフがしてくれます。平面図を書きながら高さ方向の情報も入力しますので、そこは手間ですが入力すれば平面図を変更すると立面図、断面図、パースも連動して変わってくれます。設計時の立面計画には大変役に立ってくれました。

設計時はコンピューター上で確認する事で足りましたが、現場監理の色彩計画にも使おうと考え、気に入った角度からのパースを出力し打合せ時に提示していました。仕上材の素材見本は各メーカーのホームページから入手できます。BIMで入力したにもかかわらず、パースのみの提示では生かし切れていないと思いタブレットを購入しデータを持ち歩き、発注者の前で色々な角度や方向から内外装の色彩計画を提案しています。建物の中に入っていき事も出来、まだ見ぬ建物を再現してくれます。【記：溜谷 剛】

1月



1日（日）元日・年末年始休業（～3日）
4日（水）仕事始め
17日（火）監理技術者講習
27日（金）新年大交歓会

2月



7日（火）事前防災活動に関する勉強会
8日（水）監理技術者講習
15日（水）建築士定期講習
22日（水）中大規模木造設計セミナー

士 会 奈 良 通巻 647 号

令和5年1月1日（発行隔月1回1日発行）

発 行 所 一般社団法人 奈良県建築士会
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
電話：0742-30-3111 FAX：0742-33-4333
<https://nara-kenchikushikai.or.jp/>
info@nara-kenchikushikai.or.jp

発行責任者 米 村 博 昭
編 集 （一社）奈良県建築士会 情報・広報委員会



情報・広報委員会

委 員 長	福田 成生		
副委員長	伊藤 吉郎	小西 直樹	
委 員	紀 陽介	平田 正裕	
	門脇 直也	溜谷 剛	
	永友 翔	松尾 憲治	
	上柿 範兼	山崎 修裕	
	小松原寛俊	洞 尚樹	
	押部 誠		

1級建築士試験

全国
合格者占有率

No.1

※全国合格者数・全国ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。
※学科・製図ストレート合格者とは、令和3年度1級建築士学科試験に合格し、令和3年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。
※総合資格学院の合格者には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受験生は一切含まれておりません。



総合資格学院

学院長 岸 隆司

奈良校 近鉄大和西大寺駅北口から徒歩5分

TEL.0742-30-1511 奈良県奈良市西大寺栄町3-27 泉谷ビル 4F



www.shikaku.co.jp
Twitter ⇒ @shikaku_sogo
LINE ⇒ 「総合資格学院」
Facebook ⇒ 「総合資格 fb」で検索!

総合資格学院は「日本一」の合格実績!

令和3年度 1級建築士 学科・設計製図試験

全国
ストレート
合格者占有率

59.2%

全国ストレート合格者1,342名中/当学院当年度受講生794名
(令和3年12月24日現在)

令和3年度 1級建築士 設計製図試験

全国
合格者占有率

52.7%

全国合格者3,765名中/当学院当年度受講生1,986名
(令和3年12月30日現在)

期間限定
無料でお届け!!
建築士受験生応援キャンペーン
プロ講師による講義 学習に役立つ教材
令和4年6月上旬まで
お申し込みは▼コチラ▼

開講講座

1級・2級 建築士/建築・土木・管工事・造園施工管理技士/設備・構造設計1級
建築士/建築設備士/宅建士/賃貸不動産経営管理士/インテリアコーディネーター